

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けること	・人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつこと

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・拗長音、拗促音の正しい表記を言葉や文の中で正しく用いることに課題がある。ア ・様々な友達と話したり、最後まで聞いたりすることが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習を繰り返し、拗長音、拗促音の正しい表記が定着するように図る。 ・文を書く機会を増やす。 ・1単位時間の中に交流の時間を取り入れる。 ・少人数での話し合いをする。 ・話型を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・拗長音、拗促音の正しい表記や、既習漢字を文中で正しく用いることに課題がある。ア ・交流活動を生かし、自分の考えを深めたり広げたりすることが難しい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習プリントを用いて定期的に復習を行い、定着を図る。 ・交流の視点を明確化し、考えの変容を言語化する時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して ・各単元 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を覚えたり、文中で正しく用いたりすることに課題がある。ア ・物語文や説明文を読み、自分の考えをもつことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し復習する時間を確保するために、学校と家庭学習とで連携しながら漢字練習に取り組ませる。 ・文型を示して自分の考えをもちやすくする。また、多様な考え方に触れられるよう、協働的に学習に取り組む場面を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日 ・毎単元 	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が書く文章の中で、既習の漢字を正しく用いることに課題がある。ア ・伝えたいことに合わせて、声の強弱や話す速さなどの工夫をすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を推敲する習慣を身に付けさせ、正しく言葉が使われているのかを確認する。 ・「話すこと・聞くこと」の単元で身に付けた力を明確にし、次の学習活動や他の教科でも生かしているか振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して ・話すこと・聞くこと単元 	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を覚えたり、既習の漢字を正しく用いたりすることに課題がある。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭学習とで連携しながら、漢字練習の時間を確保する。また、既習の漢字を使う機会を 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して 	

	<p>・語彙が少ないため、交流活動の中で言葉を適切に用いることに課題がある。㍲</p>	<p>意図的に設ける。</p> <p>・教科書「言葉のたから箱」を活用して、考えや気持ちを表す語彙を増やすとともに、グループ活動において、他者の考えや意見に触れる機会を設ける。</p>	<p>・毎単元</p>	
第6学年	<p>・漢字の読み書き、短文を書くことに課題がある。㍲</p> <p>・文章を読み取って自分の考えをもち、相手に伝えることが課題。㍲</p>	<p>・ドリルの音読、書き順の確認、短文を書く練習等を定期的に行う。</p> <p>・考えをもつ際に選択肢を出したり、読み取る場面を絞ったり、自分の考えをもつ場の設定をしたりする。毎授業でペアやグループでの意見交換を行い、考えを伝える場を設ける。</p>	<p>・朝学習</p> <p>・毎単元</p>	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>1・2年 写真や動画などを用いることで、言葉のイメージをもてるようにする。【重点：個別】</p> <p>3・4年 タブレット端末を活用し、考えの形成でまとめたものを共有し、他の児童の考えや書き方などの良い点を取り入れる。【重点：個別・協働】</p> <p>5・6年 タブレット端末を活用し、考えの形成でまとめたものを共有し、さらに分類・整理をする。自分の考えとの相違点や共通点を知る。【重点：個別・協働】</p>	<p>1・2年 目的意識や見通しをもって取り組める言語活動を設定するとともに、1単位時間や単元末に振り返りをし、できるようになったことを児童が感じられるようにする。</p> <p>3・4年 目的意識や見通しをもって取り組める言語活動を設定するとともに、1単位時間や単元ごとに振り返りをし、児童が学びの成果を実感できるようにする。</p> <p>5・6年 目的意識や見通しをもって取り組める言語活動を設定するとともに、学習計画及び学習課題を児童が主体的に考えられるようにする。また、1単位時間や単元ごと、単元間を関連付けた振り返りをし、児童が学びの成果を実感できるようにする。</p>

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べ、まとめること	・社会的事象について考えたことや選択、判断したことを適切に表現すること

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	・目的に合った資料を選んだり、資料から目的の情報を抜粋したりする力に課題がある。ア	・資料を精選し、読み取る範囲を限定しながらねらいに迫るよう支援を行う。教科書や「わたしたちの多摩市」のグラフや写真などの資料を活用し、適切な情報を選択できるよう繰り返し取り組ませる。	・各単元	
第4学年	・資料を読み取り、そこから分かることだけでなく、いくつかの事象を関連付けて考えることに課題がある。ア	・学習問題を考えるときに、その事象が何と関係があるのかを考えて、予想を立てさせる。	・単元ごと	
第5学年	・資料から必要な情報を読み取ることに課題がある。ア	・授業のねらいや目的を明らかにし、資料を適切に読み取れるように指導する。	・毎単元	
第6学年	・資料を読み取る力に課題がある。ア	・特にグラフを扱う際には、縦軸や横軸を中心に読み取り方についての指導をする。	・単元の内容に応じて、その都度	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>3・4年 タブレット端末を活用し、写真や動画で記録したり、自分たちが調べて分かったことをまとめたりする。【重点:個別】</p> <p>5・6年 調べて分かったこと、考えたことについてタブレット端末を活用してまとめ、プレゼンテーションや説明を行う。【重点:個別・協働】</p>	<p>3・4年 身の周りの事象から、学習問題を設定する。 学んだことを学習問題と照らし合わせ、振り返る時間を設定する。</p> <p>5・6年 自分の調べたことが学習問題の視点に合っているか、こまめに振り返る時間を確保する。振り返る視点を明示して、自分の言葉で振り返る手だてを用意する。</p>

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・数量や図形などについて理解し、日常の事象を数理的に処理すること	・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察すること

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な計算力に個人差がある。ア ・文章が読み取れず、問題の把握に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習の時間を確保する。PT 等を活用した個別指導を行う。 ・問題把握の場面や問題の解き直しの時に、問題の意味を十分に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して ・各単元 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な計算力が身に付いていない。ア ・文章問題を解く時に、内容をしっかりと理解せず、数字だけを見て立式している。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算プリントやアプリケーションの「ミライシード」を活用して、繰り返し練習する。 ・問題文の中で、分かっていることと分からないことを整理したり、図を描いたりするなどして、イメージをもちやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習、授業開始5分 ・各単元 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の理解が不十分であり、該当単元の学習に自信をもてない様子が見られる。ア ・問われていることを理解することと、知識・技能を生かして問題を解決することに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入や学習内容、児童の実態に応じて、既習事項を振り返り、問題演習を行う。 ・問われている場面を視覚化して理解しやすくしたり、数値を考えやすいものに置き換えたりすることで、児童が文章題に取り組みやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 ・各単元 	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の筆算を正確に行うことに課題がある。ア ・自力解決の場面で、自分の考えを表現することに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間を使い、九九や前学年のわり算の復習を計画的に行う。 ・個に応じた支援の方法を考えたり、ワークシートを習熟度別に工夫したりして問題解決の見通しがもてるようにし、表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習 ・1 単位時間の中で 	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・分度器やコンパスを使っての作図や、基本的な四則計算への苦手意識がある。ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入時に既習事項の確認や復習を行う。 ・また、計算力を高めるために、アプリケーションの 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面や学習課題を正しく把握することができず、解決の見通しをもてないことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ミライシード」に取り組ませる。 ・児童に見通しをもたせるために、既習事項と結び付けたり、図を用いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎単元 	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な四則計算のつまずき、計算ミスが多い。 ・文章問題で立式することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力を高めるために、アプリケーションの「ミライシード」に繰り返し取り組ませる。授業開始時や終末に数問の計算問題に取り組ませる。 ・数直線をかいて式を立てることを、徹底して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間開始、もしくは終末に5分程度 ・各単元(学習内容に応じて) 	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>全学年 「ミライシード」などのアプリケーションを活用して習熟に応じた繰り返し学習を行い、基礎・基本の定着を図る。【重点:個別】</p> <p>1・2年 タブレット端末を活用し、半具体物や図などを基にペアやグループで自分の考えを表現する機会を設ける【重点:協働】</p> <p>3・4年 タブレット端末を活用し、数直線や図などを基に個人で考え、児童の多様な考えをクラス全体で共有する機会を設ける。【重点:個人・協働】</p> <p>5・6年 タブレット端末を活用し、数直線や図などを基に個人で考え、友達の考えを説明する学習活動を意図的に取り入れる。【重点:個別・協働】</p>	<p>全学年 身近な場面や日常的な場面を問題に取り入れて課題把握をしやすくし、意欲を高める。</p> <p>1・2年 課題に対するめあてを板書し、振り返りでできるようになったことを言葉する時間を設定する。</p> <p>3・4年 既習事項を提示し、問題解決への見通しをもたせるとともに、自分の考えをめあてと照らし合わせ、振り返る時間を設定する。</p> <p>5・6年 既習事項を提示し問題解決への見通しをもたせるとともに、学習問題に対し、道筋をたてて考察することができたか、振り返る時間を確保する。</p>

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けること	・観察、実験などを行い、問題解決の力を養うこと

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	・実験や観察で得られた結果を一般化し、何が分かったのか考察する力に課題がある。イ	・考察を行う授業場面では、結果から分かった事実に着目して考えられるように指導を続ける。	・毎単元	
第4学年	・既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を立てることに課題がある。イ	・対話的な学びを充実させ、様々な根拠を基に予想を立てていける授業展開を工夫する。	・単元ごと	
第5学年	・目的やねらいを意識して実験に取り組むことや、実験の技能の定着に課題がある。ア ・実験方法を考える場面において、条件を制御しながら、正しい実験方法を導き出すことに課題がある。イ	・一人一人が実験できる機会を保証し、器具の名称などを確認しながら、実験の技能が定着できるようにする。 ・実験方法を考える際、条件を整理しながら実験方法を考えていける授業展開を工夫する。	・毎単元 ・毎単元	
第6学年	・問題解決学習の流れは身に付いている。考察を書く際に、根拠となる実験結果が記せていない児童が多い。イ	・結果の見通しを立ててから実験・観察に取り組む。また、考察を書く際には予想に対してどうであったか、根拠となる結果、問題に対する答えの3つをまとめるよう型を示す。	・毎単元	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>3・4年 タブレット端末を活用し、実験結果を記録する。 【重点:個別】</p> <p>5・6年 タブレット端末を活用し、共有した結果について話し合い、考察する。【重点:協働】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>3・4年 学習問題を解決するためにはどのように学習を進めていけばよいのか、見通しをもつ時間を確保する。</p> <p>5・6年 学習問題に対する予想の時間を確保し、考察や結論の際に予想と照らし合わせて振り返る時間を設定する。</p>
---	--

